金融論（第３回）　　１６．４．２７

－直接金融と間接金融：日本の金融における貸出の重要性　　（安孫子）

１．参考文献

・黒田晁生著『入門金融』（第３版）東洋経済新報社、2002 年

２．直接金融と間接金融とは？

・直接金融：資金不足主体　→　本源的証券　→　資金余剰主体

間接金融：資金不足主体 →本源的証券→ 金融仲介機関 →間接証券→ 資金余剰主体

・部門別では資金余剰主体：家計（2003 年末＜速報＞の金融資産･負債差額は＋1,025 兆円）

資金不足主体：非金融法人企業（同－510〃）＋一般政府（同－373〃）＋海外（同－179〃）

３．わが国の資金余剰主体・資金不足主体の特徴（資金循環統計より）

(1) 家計の金融資産の特徴・・・間接金融が圧倒的に優位（前回資料参照）

(2) 非金融法人企業の金融負債の特徴

・合計 1,202 兆円。うち**貸出**（企業からみると借入）449 兆円、株式･出資証券*1 392 兆円、株式以外の証券 112 兆円、企業間・貿易信用*2 169 兆円ほか

*1 株式・出資証券については、相互持合いにより両建てで拡大している可能性が高い（株式・出資証券を非金融法人企業が資産として 114 兆円保有＋金融機関が同 154 兆円保有）。

*2 企業間・貿易信用については、非金融法人企業は金融資産側としても 212 兆円保有。

(3) 一般政府の金融負債の特徴

・合計 810 兆円。うち国債・財投債*3 464 兆円、政府短期証券 70 兆円、**貸出**186 兆円ほか

*3 国債・財投債を資産として保有しているのは、大半が金融機関（ｼｪｱ 86%）。残りは一般政府 41 兆円（7%）、家計 13 兆円（2%）、海外 17 兆円（3%）、非金融法人企業 1 兆円など。

― 証券化が進んでいる一般政府の資金調達においても、実態は間接金融が優位。

(4) 海外の金融負債の特徴

・合計 394 兆円。うち対外債権等*4 301 兆円、**貸出**（海外からみると借入）73 兆円ほか

*4 対外債権等を資産として保有しているのは、金融機関（ｼｪｱ 46%）。残りは一般政府（24%）、非金融法人企業（22%）、家計（3%）など。

４．貸出の重要性

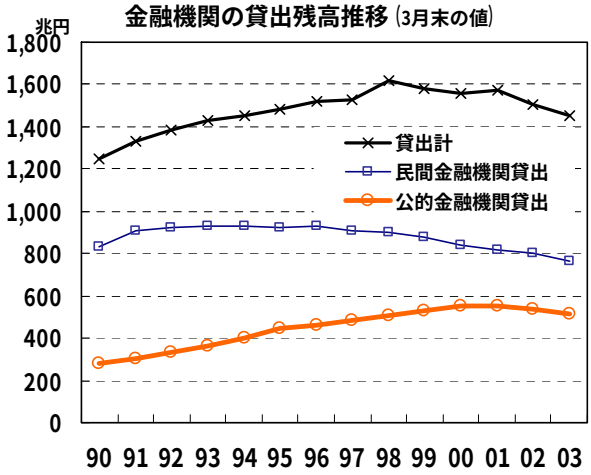
・日本全体の貸出は 1,563 兆円。うち 1,407 兆円（ｼｪｱ 90%）は金融機関の貸出（資産側）。

・金融機関の貸出のうち、民間金融機関貸出は 739 兆円、公的金融機関貸出は 495 兆円。

・もっとも、時系列でみると、金融機関の貸出残高は 98 年度以降、減少傾向。また、公的金融機関貸出のウェイトが拡大。

― 民間金融機関貸出は 93 年度から横ばいに転じ、96 年度から減少が続く（90 年を下回る）。

― 公的金融機関貸出は急拡大した後、01 年度から減少に転換（なお 90 年と比べ約２倍の水準）。



以　上